

## 【その他無脊椎動物】海洋生物レッドリスト（2017）

絶滅（EX）	0 種
野生絶滅（EW）	0 種
絶滅危惧 IA 類（CR）	1 種
腕足動物門 オオシャミセンガイ	<i>Lingula adamsi</i>
絶滅危惧 IB 類（EN）	2 種
環形動物門（旧多毛綱） <sup>1</sup> アリアケカワゴカイ ツバサゴカイ	<i>Hediste japonica</i> <i>Chaetopterus cautus</i>
絶滅危惧 II 類（VU）	1 種
脊索動物門頭索動物亜門 ヒガシナメクジウオ	<i>Branchiostoma japonicum</i>
準絶滅危惧（NT）	20 種
刺胞動物門花虫綱サンゴ科 アカサンゴ モモイロサンゴ シロサンゴ	<i>Corallium japonicum</i> <i>Pleurocorallium elatius</i> <i>Pleurocorallium konojoi</i>
環形動物門（旧多毛綱） <sup>1</sup> ウチワゴカイ イトメ アカムシ 和名なし ムギワラムシ	<i>Nectoneanthes uchiwa</i> <i>Tylorrhynchus osawai</i> <i>Halla okudai</i> <i>Chaetopterus kagosimensis</i> <i>Mesochaetopterus japonicus</i>
環形動物門（旧星口動物門） <sup>1</sup> スジホシムシモドキ スジホシムシ	<i>Siphonosoma cumanense</i> <i>Sipunculus nudus</i>
環形動物門（旧ユムシ動物門） <sup>1</sup>	

【その他無脊椎動物】

サビネミドリユムシ	<i>Anelassorhyncus sabinus</i>
セトウチドクチュムシ	<i>Arhynchite hayaoi</i>
サナダユムシ	<i>Ikeda taenioides</i>
ユメユムシ	<i>Ikedosoma elegans</i>
ゴゴシマユムシ	<i>Ikedosoma gogoshimense</i>
ユムシ	<i>Urechis unicinctus</i>
半索動物門ギボシムシ綱	
ワダツミギボシムシ	<i>Balanoglossus carnosus</i>
ミサキギボシムシ	<i>Balanoglossus misakiensis</i>
脊索動物門頭索動物亜門	
オナガナメクジウオ種 1 <sup>2</sup>	<i>Asymmetron</i> sp. 1
オナガナメクジウオ種 2 <sup>2</sup>	<i>Asymmetron</i> sp. 2
情報不足 (DD)	13 種
腕足動物門	
ムツシャミセンガイ <sup>3</sup>	<i>Lingula nipponica</i>
ミドリシャミセンガイ種 1 (奄美大島笠利湾など) <sup>3</sup>	<i>Lingula</i> sp. 1
ミドリシャミセンガイ種 2 (有明海など) <sup>3</sup>	<i>Lingula</i> sp. 2
ミドリシャミセンガイ種 3 (下田沖など) <sup>3</sup>	<i>Lingula</i> sp. 3
環形動物門 (旧多毛綱) <sup>1</sup>	
アナジャコウロコムシ	<i>Hesperonoe hwanghaiensis</i>
サツマフタカギヤドリ	<i>Natsushima graciliceps</i>
ビクニイワムシ	<i>Marphysa tamurai</i>
環形動物門 (旧星口動物門) <sup>1</sup>	
アマミスジホシムシモドキ	<i>Siphonosoma funafuti</i>
環形動物門 (旧ユムシ動物門) <sup>1</sup>	
ミドリユムシ	<i>Anelassorhyncus mucosus</i>
ドクチュムシ	<i>Arhynchite arhynchite</i>
半索動物門ギボシムシ綱	
シモダギボシムシ	<i>Balanoglossus simodensis</i>
キタギボシムシ	<i>Saccoglossus borealis</i>
脊索動物門頭索動物亜門	
カタナメクジウオ	<i>Epigonichthys maldivensis</i>

絶滅のおそれのある地域個体群 (LP)

1 集団

環形動物門 (旧有鬚動物門)<sup>1</sup>  
鹿兒島湾のサツマハオリムシ

*Lamellibrachia satsuma*

## 【その他無脊椎動物】

---

<sup>1</sup>本リストの高次分類群の表記について：

本リストでは分子系統学の知見を取り入れた新しい分類体系を採用しているが、一般の利便性のため必要に応じ括弧書きで伝統的分類体系(例えば「旧多毛綱」)を併記することとした。

<sup>2</sup> これらは従来、我が国ではオナガナメクジウオ *Asymmetron lucayanum* と同定されてきたものだが、近年の研究により、今まで全世界でオナガナメクジウオ 1 種とされてきたものがよく似た 3 種に分けられること、*Asymmetron lucayanum* は日本に分布しないことが判明した (Kon, T., M. Nohara, M. Nishida, W. Sterrer and T. Nishikawa, 2006. Hidden ancient diversification in the circumtropical lancelet *Asymmetron lucayanum* complex. *Marine Biology*, 149: 875-883.)。そのため、日本に分布する、論文中で Clade A/ Clade B とされた 2 種をそれぞれ種 1/種 2 とした。

<sup>3</sup>近年の研究により、従来日本各地でミドリシャミセンガイ *Lingula anatina* に同定されてきた個体群は地域ごとに別種を構成し、いずれもインドネシア産の個体に基づき記載された *Lingula anatina* とは別種と判断すべきである可能性が高いことが判明した (Nishizawa, A., I. Sarashina, Y. Tsujimoto, M. Iijima, and K. Endo, 2010. Artificial fertilization, early development and chromosome numbers in the brachiopod *Lingula anatina*. *Special Papers in Palaeontology*, 84: 309-316.ほか)。そのため、陸奥湾、笠利湾、有明海、下田沖で「ミドリシャミセンガイ」とされてきた個体群をそれぞれ別種として評価した。